

祭光

741号

2022年3・4月
日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
<http://den-church.jp/>

患いを負い、病を担い

イザヤ書 五三章一〜一二節
マタイによる福音書 八章一四〜一七節

牧師 高橋 和人

聖書の成就

主イエスのなさったこと、話されたこと、そのお姿は、聖書が語ること、(旧約)聖書の言葉の実現であった。一章二節には「このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。」と記されています。

主の誕生自体が神の言葉の実現であったということですので。口語訳では実現には「成就」が使われていて、その方が「実現」という言い方よりも待ちわびて、達成されたこと、待望していたことが叶ったという思いが表れるように思います。

ペトロの姑

今日の聖書の個所では、主イエスがペトロの家に行かれます。ペトロは最初の弟子ですし、漁師であったことは良く知られています。彼の家はガリラヤ湖畔の町カファルナウムにあります。現在、ペトロの家と言われている

るところは発掘されています。後の時代に教会が立てられていましたが、その下に、民家の跡があり、それは中庭のある大きめの普通の家ようです。このペトロの家は主の活動の拠点であったと考えられています。主イエスは既にこの家から、安息日には会堂に出かけて行き、また、山に登って人々に語ることをされていたのではないかとこの家について、人々を招き、説教されていたこともあったでしょう。

さて、この日は山上の説教から始まりまして。そして主イエスは山を下り、重い皮膚病の者、百人隊長の僕を癒し、ペトロの家に帰ってきたのです。そしてこの日、ペトロの姑が熱を出して寝込んでいました。

癒し

主は説教を語られ、それに続いて主は癒されたことが記されています。この時代の癒しは、現代の医療とは発想が違っていました。

今では病気を身体的なことと精神的なこの問題と分けて考えることが多いのですが、当時は心と体の分かれ目がはっきりしていませんでした。癒しという肉体から魂までを含んだ回復でした。さらには人と人、その人と社会、さらに神と人との関係が回復されることです。傷んだもの、壊れたもの、失われたものが全体で取り戻されることです。

主イエスが癒された重い皮膚病の人は治っただけでなく、祭司から清められた証明を受けるように言われます。その証明で人に近づき、町に入ることができるようになります。百人隊長も帰りなさいと言われて帰って行きます。帰って生活を取り戻すところまで、そこまでが癒しになります。

熱が去って

主イエスが熱を出して寝込んでいる姑の手に触れるとその熱は去ってゆきました。熱を出す、というのは熱が打つというような言い方です。彼女を打ちたいという熱が去り、熱から解放された。彼女は起き上がりもてなした。これまでも、そうしていたのでしよう。しかし彼女の熱によって、本人も、周りも主イエスを迎えることに手が付けられなかったのです。もてなしは「奉仕」という言葉です。主イエスは彼女の手に触れ、彼女がこれまでしていた奉仕、つまり主イエスに仕えることを取り戻されたのです。そして元のよう

言葉と癒し

直ぐに夕方になります。夕方から次の日が始まります。すると人々は悪霊に取りつかれた者を大勢連れてきた。主は休むことなく働かれたのです。言葉で悪霊を追い出されたのです。四章二三節にも「イエスはガリラヤ中